

地域と協同の

145号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

「協同組合連携を考える」

岩橋 良直氏（JA愛知中央会 監事）

日々の新聞の経済面には、利益を求め企業間の提携、協定締結などのニュースに溢れている。同業に限らず異業種や競合企業とも合縦連衡は日常茶飯事である。国家間では、貿易ルールの共通化、経済連携、同盟を探る動きが盛んである。もちろん国としての自立が前提であるべきであるが、長期的にはグローバル化による互惠関係の流れは不可逆的である。そこでは強者同士がさらに強くなる連携のほかにも弱い面を補いあう相互補完や、対抗勢力を形成する同盟など様々な相互依存、互惠関係がある。

翻って協同組合間の連携の現況はどうか。農産物を媒介とする産消提携が基礎となり農協と生協との連携が始まり、直近では2012協同組合年を契機に協同組合間での人的交流が広がりつつある。30年ほど前に嘗てのリーダーが先駆的に始めた頃に比べれば、隔世の様相を見せている。

ただ、一方で協同組合を巡る今の政治経済状況をみれば、今般の農協改革やTPP議論にあるように風潮として経済至上、株式会社優先、個人責任重視の考え方が広がりつつあり、社会基盤としてのくらしの安定性や安全性が切り崩され、また弱者切り捨て、地方衰退、格差拡大の方向に向かっている。ICAブループリントで「持続可能な社会に向けた構築者」とされる協同組合に試される共通課題が増えつつあるように感じるが、主体を担うには力量不足である。今年の愛知の協同組合年記念行事テーマにあるように協同組合連携も未だ「可能性を探る」入口の議論に留まっている。

確かに同じ協同組合ではあっても出自や根拠法の違い、構成員やバックボーンなどいくつも違いはあるが、大きな視点でみれば同じ源流を持ち、理念を同じくし、暮らしや食、農を分野としている協同組合組織である。協同の力をあわせられる素地は十分ある。企業、国家ですら、既存の枠組を超え、利害の異なる相手とも互惠を求めて戦略的に調整しあう時代だ。そこでは最新のIT技術、物流など新しい技術も採り入れ協定締結している。

条件の厳しい中山間地域において、協同組合同士が経営資源を提携しあって、地域の人々のくらしを支える取り組みが興りつつあるが、競争より協同、成長より持続を大事にする組織として、人的つながりを基礎にもう一段の提携、戦略的な発想が求められるのではないか。それには、個別組織の自立を前提としお互いの特性を踏まえつつも、組織面、事業面、経営面で互惠を築く展望とその具体化が必要である。リーダーの役割とそれを支えるスタッフの努力がこれまで以上に求められるときではないかと思う。

CONTENTS

- 巻頭：「協同組合連携を考える」岩橋 良直氏 1
- 岐阜地域懇談会 2
- 「プチ・フォーラムin岐阜」を開催
- 研究フォーラム「環境」世話人会活動から 3
- 電力自由化・再生可能エネルギー発電と市民の調査活動（中間報告） 4
- 岐阜地域懇談会 5
- 岐阜県郡上市白鳥町石徹白3回目の訪問 報告
- 情報クリップ 6
- 企画・書籍紹介 7

研究センター 9月の活動

- 9月1日(木)組合員理事ゼミナール第2回世話人会
- 9月3日(土)共同購入マイスターコース③
- 9月5日(月)政策提言チーム「JA愛知東、JAひまわり」訪問
- 9月6日(火)研究センター事務局会議、三重地域懇談会・世話人会
- 9月12日(月)岐阜地域懇談会・世話人会
- 9月14日(水)尾張地域懇談会・世話人会「南医療生協」訪問
- 9月15日(木)協同の未来塾⑨ 9月16日(金)くらしを語り合う会
- 9月17日(土)第13回東海交流フォーラム第1回全体実行委員会
政策提言「第2回公開学習会」
- 9月22日(木)常任理事会 9月23日(金)研究フォーラム環境・世話人会
- 9月26日(月)研究センターNEWS発送 9月28日(水)三重地域懇談会・
世話人会(桑名訪問)
- 9月30日(金)組合員理事ゼミナール①

「プチ・フォーラム in 岐阜」を開催（岐阜地域懇談会主催）

報告者：熊崎 辰広

7月23日（土）午後、「プチ・フォーラム in 岐阜」として、二人の地域で活動されている方を招いて、それぞれの地域での実践報告をお聞きしました。会場は「生活協同組合 コープぎふ」本部大会議室。参加者は21名。今年で2回目の開催となりました。2月の東海交流フォーラムを受けて、その岐阜県版ということで開催しました（写真右は懇談の様子）。



「石徹白（いとしろ）で地域自治再生をめざし

小水力発電に取り組む」

最初の実践報告として、「石徹白（岐阜県郡上市白鳥町）で地域自治再生をめざし小水力発電に取り組む」と題し、「NPO 法人・地域再生機構」副理事長の平野彰秀さんが報告されました。

平野さんには1月の東海交流フォーラムでも発表いただきました。お話は重なるところもありましたが、あらためて確認できたのは、**地域の資源の一つである、水力を使つての売電事業により、地域のなかに資金として蓄積でき、それを活用することであたらしい地域おこしの事業を生み出すことが可能**になったということです。

発電事業に使われた、明治時代につくられた尾根づたいの3キロの用水路もまた貴重な地域資源であり、地域の文化や歴史を見直すきっかけにもなりました。「いとしろカレッジ」や、ツーリズムの事業など、外から人々を呼び込む企画も増えていて、そのような交流を通じて、移住の動きも大きくなっているようです。13世帯32人が移住しています。過疎地域での、地域おこしのひとつの典型的な事例として、これからの発展が期待できそうです。

「和良おこし公民館」の活動を通して地域活性化に取り組む」

もうひとりの報告者は、『和良おこし公民館』の活動を通して地域活性化に取り組む」と題し、和良町（岐阜県郡上市）出身の加藤真司さんです。

加藤さんは「地域おこし支援隊」でもあり「和良おこし協議会」事務局長として、様々な企画に取り組んでいます。今回はその一端の報告ですが、以前研究センターNEWS（140号）で、「和良おこし公民館」の活動内容を紹介しました。

江戸時代には水運を利用して米の多くが江戸まで運ばれている歴史があり、この「米づくり」や「オオサンショウウオ」と「和良鮎」などの地域資源を活用した取り組みが進んでいます。オーナー制度や観察会などの企画が続けられています。

5年ほど前から、始まった「T型集落点検活動」は熊本大学の徳野先生の指導をもとに、一過性の活動ではなく、持続的な課題をもって12地区で具体的な成果をうみだしています。「ヒメボタル」や「梅花藻」の観察ツアー、地域の文化の見直し、そば作りなどが行われています。ある地区では石徹白の活動に学び「小水力発電」の試みもあるようです。

また、空家を活用した移住促進の活動もすすめられています。移住の際の様々な解決すべき問題について、コーディネーターとして関わり、5組11名の方が移住されました。

とくに「T型集落点検活動」については、もともと過疎地域での活性化、地域おこしをいかに地域の住民や、他出子（たしゅつ・し）などを巻き込みながら進めるかをテーマにした活動であり、昨年はこの活動を検証すべく日本村落研究学会（徳野会長）が開催されました。この地域の活動も引き続き見守っていききたいと思います。



報告者の平野さん（左）と加藤さん（右）

以上

研究フォーラム「環境」世話人会活動から

電力自由化・再生可能エネルギー発電と市民の調査活動 (中間報告)

(文責：渡辺 勝弘)

当研究センターでは、地域 (岐阜, 三重, 尾張, 三河) ごとの持続可能なまち (地域) づくりの実践を共有し、深める点を大切にしています。そのため、地域活動を支援できるよう 4 つのテーマで学び合う研究フォーラム活動をすすめています。「食と農」「地域福祉を支える市民協同」「職員の仕事を考える」「環境」の 4 つです。

それぞれのテーマで、学び合いと研究がスムーズにすすむよう「世話人会」をつくり、研究活動のすすめ方を相談しています。今回は「環境」をテーマにした世話人会活動をご紹介します。

電力自由化が翌年に迫った 2015 年度は、現状を知るために「浜岡原子力発電所見学 (15 年 4 月・31 名参加)」、名城大学経済学部・井内尚樹教授をお迎えし「学習会 (9 月・32 名参加)」、三重の間伐材を利用した木質バイオマス発電「三重エネウッド・ウッドピア見学 (12 月・13 名参加)」を実施しました。

2016 年度のテーマも引き続き「再生可能エネルギー」。16 年 3 月、「コープあいち・環境活動推進委員会」で開催された「石井 伸弘氏 (電気をカエル計画 代表)」の学習会を、研究センター環境・世話人会として三重県津市 (アスト津) で 5 月 14 日 (土) に開催しました (参加 45 名)。

講師の石井さんから「新電力の中でも『こだわりがあり、家庭向けも手掛ける新電力は全国でも数社』」のご指摘で、愛知県清須市にある「株式会社みらい電力 (以下、みらい電力)」の取り組みを学ぶ活動を計画しました。

計画は決まったものの、研究センターと「みらい電力」にお付き合いはなく、問い合わせ先にメール。学習の趣旨をご説明したところ、快く対応いただけることになり、16 年 7 月 27 日 (水) に開催出来ました。

ご参加くださったのは (株) エヌパワー・高橋様 (写真「左」)、(株) みらい電力・杉原様 (写真「右」)。

学習テーマは「再生可能エネルギーを主体とした電力事業の現状と今後の展望」です。

「みらい電力」の再生可能エネルギー買取は太陽光発電施設 (協力会

どの新電力を選べば?

企業名	概要	供給実績
トック電力	ユープさっぽろ株式会社、北海道エリア、エナ・伊藤倉エネクス電力販売と環境、太陽光、バイオマス燃料を中心として供給予定	未
うなかみの大地	ハルシシステム子会社、関東・東北エリア、再生エネ比率7割超。(主にバイオマス等利用) ハルシシステムの事業所へのみ供給、家庭向けは未定。	1,217
エネジー	2016年10月以降、関東の総合員向け供給を予定	1,506
みらい電力	愛知県清須市に本社、再生エネ比率45% 全国へ供給実績あり。一般向けには2017年春以降	3,812
リバー	再生エネのバランス、太陽光発電率高い、夏以降	3,296
Loop	太陽光発電の設置費からスタート、再生エネ比率26%(FIT20%) 小売り新規参入、現在申込みできる、値段も安い。	1,257



社) 数社、「バイオマス発電 (協力会社 2 か所)」(学習会当時)。「現状再生可能エネルギーは FIT もしくは RPS の電源が主」であり、「みらい電力」の電源構成比のうちの 32% とのことでした。林野庁等が示す「地球温暖化の一般的な影響」を考慮し、様々な問題が山積する中「みらい電力」では「再生可能エネルギーの供給量を増やす取り組みを実践中」とのお話でした。「地域で作った電力を地域で使う『エネルギーの地産地消モデル』の検討」「電力事業で最も必要とされる『30 分単位での需要と供給のバランスを調整』」「太陽光発電サポート：太陽光パネル



設置事例 (事務所「左」、工場の屋上「右」活用) などの課題に取り組みながら、2017 年 4 月を目標に低圧供給の準備をすすめていらっしゃいます。

学習会に参加した世話人からは以下のような感想が出されました。

- 「電気の問題を学習し、再生エネルギー発電を通して、地域の課題が見えてきた。今日はこういう事業者 (みらい電力) がいるということがわかりは励みになった。」
- 「太陽光発電は設置条件が緩やかだが日本の国土が狭い点も考えると、太陽光発電で公害が起きる地域も考えられる。太陽光ならいい、風力ならいいとはならない。」

研究フォーラム「環境」世話人会では今後、バイオマス発電の学習や他生協での電力事業の様子を学習する予定です。世話人会には研究センター会員ならどなたでも登録可能です。興味のある方はお気軽に研究センターまでお問い合わせください。

以上
=情報=生協運営資料 No.291 で「電力の小売全面自由化と生協の電気小売事業」の特集が掲載されました。関心のある方は是非ご一読ください。

岐阜地域懇談会 岐阜県郡上市白鳥町石徹白3回目の訪問 報告

文責 世話人: 原 勝行

「電力の地産地消と小学校存続を求めて・・・」

石徹白(いとしろ)「小水力発電」の取り組み見学の経過

岐阜地域懇談会では、福島第一原発事故以後の電力をめぐる議論から小水力発電の実験をしている石徹白を訪問してみようという事になり、2012年8月に初めて訪問した。その後の情報収集と岐阜地域懇談会への報告は私から行き、郡上市建設の発電施設が完成した直後の昨年8月に第2回、そして石徹白農業用水農業協同組合の発電所が完成したすぐ後の今年8月に第3回の見学を行った。但し第3回は地域懇談会のメンバーのみの参加で行った。

第1回の見学時は水車型の発電機が完成した後で、まだ農産物加工センターは十分に稼動していなかった。交流会では「石徹白地域で電気の地産地消を実現したい」「小学生は全体で12名。将来にわたって小学校を残したい」という夢と願いが印象的だった。それからわずか3年後の2015年には行政の発電所が稼動し、協同組合の発電所が建設工事に入ると共に、行政の「地域おこし協力隊」の制度を使って農産物加工センターの稼動と石徹白への移住者が順調に増えて、就学前の子どもが増加しているという状況まで到達した。

今年は当研究センターの東海交流フォーラムに、石徹白に移住して中心的役割を担ってみえる「NPO法人・地域再生機構」副理事長の平野彰秀さんから報告をいただき、多くの方に石徹白の小水力発電の取り組みと、それに関わっての地域づくり活動を聞いていただく事ができた。今年の6月について「石徹白農業用水農業協同組合」が運営する発電所が稼動して、石徹白地域の使用電力以上を発電して売電するに至った。



明治時代に先人によってつくられた水路が発電の源・・・

今回の3回目訪問では、先人が明治時代に構築した1号水路と、水路からのヘッドタンク(写真・上)を見学するところから始めた。川の上流にある取水場までは行けなかったが、尾根の頂上にあるヘッドタンクまでかなりの距離を、機械がない中で山の側面を削っての水路工事はかなり大変な工事だったと思われる。この先人が残した水路が石徹白の小水力発電すべての源になっている。

石徹白の住人と、移住してきた人たちが協力して地域づくり

3回の訪問による交流で、石徹白の人たちと地域外から移住してきた平野さん達がどのように結びつき、協同して地域づくりがすすめられるようになったのか、その全体像がやっと見えるようになった。もともと石徹白には「NPO法人・やすらぎの里いとしろ」があり、ホームページも開設されていた。このNPO法人は私たちが自主研究会で石徹白合宿をした2003年にはすでに活動していた。そのNPO法人の活動に関わっていた石徹白地域の人たちの活動や願いと平野さん達の活動が繋がることから、「NPO法人・やすらぎの里いとしろ」が小水力発電づくりの母体になり、小水力発電だけでなく地域づくりの様々な活動がすすめられてきた。

「地域おこし協力隊」として石徹白に移住してきた人は、契約は郡上市で行っているが活動内容はすでに「石徹白地域づくり協議会」で具体化されており、任期を終えても新たな仕事を得て石徹白に住み続けている。移住者である平野さんは現在石徹白への移住希望者の面談を行ったり、「白山中居(はくさんちゅうきよ)神社」の祭礼での楽器演奏をしたり、完全に地域の中心メンバーになっている。



以上

石徹白番場清流発電所前にて

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半型 定価/頒価
<p>▶地域社会づくりの一員として取り組む生協の見守り活動</p> <hr/> <p>NAVI 2016. 9 No. 774</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 地域社会づくりの一員として取り組む 生協の見守り活動</p> <p><コープのある風景> 生協ひろしま <こんにちは！生協男子ですっ！> おかやまコープ 小野祐嗣さん <元気な店舗の取り組みを学ぶ> コープさっぽろ しがいースト店 <宅配・現場レポート> いばらきコープ <生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP 商品> CO・OP 戻さず使える国産芽ひじき <つながろう CO・OP アクション情報>株式会社 東北協同事業開発・みやぎ生協 <想いをかたちにコープ商品> CO・OP 国産野菜の具だくさん五目厚揚げ <今月のコープで笑顔がキラリ> コープしが <エッセイ> 東京⇄パース 小島慶子の 8,000 キロ通信 空からひとりごと <日本全国ふだんのくらしを支えたい> コープあいち <明日のくらし ささえあう CO・OP 共済> ライフプランニング活動交流集会 <この人に聴きたい> ファッションモデル・タレント 浜島直子さん <ほっとnavi> コープこうべ コープかがわ</p>	<p>2016 年 9 月 A4 版 36 頁 定価 360 円</p>
<p>▶電力の小売全面自由化と生協の電気小売事業</p> <hr/> <p>生協運営資料 2016. 9 No. 291</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>●巻頭インタビュー わが生協、かくありたい！ 生協とは人の成長するプロセスを共有する組織 変わらぬ信念を持ち、共感を生む事業を迫及する パルシステム連合会 ●理事長 石田敦史氏</p> <p>特集 電力の小売全面自由化と生協の電気小売事業</p> <p>1 ふだんのくらしにお役立ちする事業を目指し全国に先駆け「コープでんき」を展開 大阪いずみ市民生協 ●執行役員 情報システム部長 森 晃氏 宅配商品部 部長 藤山聖彦氏</p> <p>2 組合員に選択肢を提示することが使命 コープさっぽろが総力をあげる「トドック電力」 株式会社トドック電力 ●専務取締役 小暮明大氏 コープさっぽろ ●宅配事業本部 運営部 部長 内田祐二氏</p> <p>3 組合員の高い期待に応じて再エネと省エネを推進する 株式会社生活クラブエナジー ●代表取締役 半澤彰浩氏</p> <p>4 電気小売事業の構造と課題を考察 「電力小売事業研究会」報告 日本生協連 ●組織推進本部 環境事業推進部 部長 板谷伸彦氏 (株)地球クラブ ●事業部長 高橋怜一氏</p> <p>連載</p> <p>● これからの店舗事業のあり方を考える 第3回 店舗事業再生に向けた改装に店舗事業部、店舗商品部、 開発・施設管理が三位一体で取り組む コープこうべ ●店舗事業部 業務改革 チーム課長 橋本幸雄氏 担当課長 本田修之氏</p> <p>● 全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ 第15回 地域に合った事業と職員が働き続けられる環境を構築する「共同購入改革」 おおさかパルコープ ●常務理事 奥井和久氏 都島支所 副支所長 中井大助氏 共同購入支援本部 マネージャー 佐竹 健氏 運営担当 山田雄介氏</p> <p>特別企画 特定商取引法・消費者契約法改正のポイントと残された課題 弁護士 池本誠司氏</p> <p>● 事業者事例報告 <牛乳販売店の「宅配」に関する自主規制マニュアル>作成に至る経緯 (一社)全国牛乳流通改善協会 ●会長 橋本正敏氏</p>	<p>2016 年 9 月 B5 版 100 頁 定価870 円 (送料別)</p>

<p>▶アクティブ・メンバーシップの確立に向けて</p> <hr/> <p>月刊 J A</p> <p>2016. 9 vol. 739</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 アクティブ・メンバーシップの確立に向けて アクティブ・メンバーシップの確立に向けた JA グループの取り組みについて JA 全中組合員・くらしの対策推進部 JA の自己改革とアクティブ・メンバーシップー本来の JA 改革のために 増田佳昭 (滋賀県立大学教授) 「組合員アンケート」を活用してアクティブ・メンバーシップを強化する 西井賢悟 (一般社団法人 JC 総研主任研究員)</p> <p>オピニオンリーダーに聞く 湯浅誠 きずな春秋 ー協同のこころー 非常時には問題児のグループ化を 童門冬二 JAグループ共通コンテンツ JAトップインタビュー 職員の自主性で地域貢献活動を 樋脇建治 (鹿児島県 JA あいら 代表理事組合長) 展望 JA の進むべき道 組合員の高い評価を得る、という具体的な目標を 比嘉政浩 (JA 全中専務理事)</p> <p>海外だより [D.C 通信] 連載 64 EU 離脱を選択したイギリス国民投票が通商交渉に与える影響 中村岳史</p> <p>第29回広報活動優良JA紹介 地域密着型広報活動の部 優秀賞 JAあいち知多(愛知県) ホームページの部 優秀賞 JA仙台(宮城県)</p> <p>JA実務講座 会計・監査実務 尾田智也 民法実務 小川清一郎 現代契約法(実践論) 遠山信一郎 JA理事・経営管理委員のための基礎講座 服部夕紀 JA財務相談 平野秀輔</p>	<p>2016年 9月 A4版 50頁 年間購読料 5,109円(送料 消費税込)</p>
<p>▶組合員参加は生協の優位性をつくるのか</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2016. 9 Vol. 488</p> <p>(財) 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 新しい技術と協同 福島裕記</p> <p>▶特集 組合員参加は生協の優位性をつくるのか サードセクター組織と参加</p> <p>これからの組合員活動を考える 中島智人</p> <p>市民が作る地域福祉 小方泰</p> <p>ー盛岡医療生協湯沢地区のたまり場「みんなの家」ー 山崎由希子</p> <p>くらしに関する保障を学び合う ー生協共済の中の組合員参加ー 小塚和行 ソーシャルメディアが変える参加のあり方 白水忠隆 「組合員を大切に」「組合員とともに」で「すごい生協」に ーコープみやざきの経験が示唆するものー 松田千恵</p> <p>コラム 相互扶助精神をはぐくむ共済と組合員参加活動 ー生活クラブ共済連インタビューよりー 齊藤真悟</p> <p>■研究と調査 森林・林業施策の変遷と森林組合制度 早瀬悟史</p> <p>■時々再録 首都直下地震 備えの現場を歩く 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで (2016・7) 合瀬宏毅・有田芳子</p> <p>■書籍紹介 TPP 協定と農業、共済への影響を学ぶ4冊 小塚和行</p>	<p>2016年 9月 72頁 B5版 (定価500円)</p>
<p>▶「国際マメ年」と農業の進路</p> <hr/> <p>文化連情報</p> <p>2016. 9 No. 462</p> <p>日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー (31) 正准一体で地域と地域農業を守る 馬場紀光 アベノミクスを見直し社会保障充実へ政策転換を 山田尚之 日本文化厚生連第68回通常総会で全議案可決 院長リレーインタビュー (292) この地域の医療の砦として 杉田孝 二木学長の医療時評 (141) 私の医療政策の分析・予測の視点と方法 ー第57回日本社会医学会総会特別講演より 二木立</p>	<p>2016年 9月 B5版 92頁 文化連情報 編集部 03-3370-2529 *注</p>

	<p>2016年夏の参院選をどう見るか(上) 農業・農村の怒りと野党共闘 田代洋一</p> <p>制度による誘導強まる医療・介護連携 第20回「福祉研」開催にあたって 東公敏 「国際マメ年」と農業の進路 関根佳恵</p> <p>[新連載]韓国農業の実相 - 日本との比較を通じて (1) 韓国経済における農業の位置 品川優 農村医学は世直し運動! ~ 私の歩んできた道(18) 健康管理センターは赤十字の旗の下で 小山和作 全国厚生連栄養士協議会で「統一献立」に取り組んでいます 石井洋子</p> <p>厚生連病院における質の高い臨床研究を目指して 医学系研究における倫理指針と利益相反管理の理解を深める 第2回厚生連病院臨床研究研修会報告 酒井真弓</p> <p>第85回関東地区厚生連医療材料共同購入委員会 ／第38回関東地区医療材料共同購入対策会議報告 永島純平 第12回厚生連医療機器・保守問題対策会議報告 筒井優 第94回国際協同組合デー記念中央集会報告 熊谷麻紀</p> <p>デンマーク&世界の地域居住 (88) オランダの革新⑨ Wmo とボランティア活用 松岡洋子 熱帯の自然誌 (6) 最も古い現代人の骨 安間繁樹 コペンハーゲン・フェレルゴーン デンマーク最大規模の高齢者住宅 (1) フェレルゴーンの仕組み 小磯明</p> <p>●野の風● 農と地域をデザインでつなぐ 江川梢</p> <p>第20回厚生連病院と単協をつなぐ医療・福祉研究会開催のお知らせ 第7回厚生連医療材料対策研究会／検査試薬対策研究会開催のお知らせ 第7回厚生連 DPC／PDPS 対策研究会開催のお知らせ 平成28年度厚生連院内感染予防対策研修会〈基礎・栄養科〉開催のお知らせ 第7回厚生連医療メディエーター養成研修会・ 第4回厚生連医療メディエーター実践者スキルアップ研修会開催のお知らせ 第29回厚生連薬局管理者研修講座開催のお知らせ</p> <p>各地のニュース 書籍紹介 『介護保険制度史』 『政府はもう嘘をつけない』 線路は続く (102) 新しくて古い新京成電鉄 西出健史 最近見た映画 奇跡の教室 受け継ぐ者たちへ 菅原育子</p>	
--	--	--

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(✿)などを中心に順不同で紹介しています（主な内容は目次等から事務局が要約しています）。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

農業・農協問題研究所東海支部 2016年度研究例会

「農山村移住と農のある暮らしを考える」

「地方創生」が掲げられる中、農山村の現場ではどのような取り組みが行われているかを、愛知県奥三河地区を事例として取り上げ、実際に農山村移住を経験し、あるいは支援している方々の現地報告をもとに理解を深め、農山村への移住を考えておられる方や、「農のある暮らし」に関心を寄せる方とともに、今後の課題や対応策について議論を深める機会とします。

期日：2016年11月27日（日）14時より 愛知学院大学 名城公園キャンパス 1303教室

（アガルスタワー13階） 地下鉄名城線「名城公園」駅下車、2番出口を大通りに沿って左折徒歩2分

内容：コーディネーター解題 「田園回帰をめぐる論点（仮）」

関根佳恵（愛知学院大学経済学部准教授）

報告①「東海地域の農山村移住の動向（仮）」吉野隆子氏（オガニックファームズ 朝市村）

報告②「私の農山村移住経験」 新城市移住者の生産農家及び農家民泊の事例

参加費 一般参加者：500円（資料代） 大学生・高校生無料

参加申込・問い合わせ先：地域と協同の研究センター TEL052-781-8280 E-mail yunoda@tcoop.or.jp

（担当：野田）

※「募集チラシ」は、次号（146号）研究センターニュースにてあらためてお届けします。

書籍案内



シリーズ・これからの地域づくりと生協の役割 4
タオルの絆 “あいち”からこの想いとどけたい
 著者：野口武 単行本：333 ページ
 出版社：コープ出版 発行：2015/2/28 定価：1,500円＋税

なによりも、震災復興支援の大きな結束力を生んだのは、まぎれもなくコープあいちの組合員と職員の手によって集められた、支援タオルの力です。そのタオルは、気仙地域をはじめとした被災地の皆さんが自らの手で配ってくれました。この本には、ここに名前を載せることができなかつた、皆さんの想いが込められています。

（著者：野口武/あとがきより）

「タオルの絆」購入を希望される皆様は、「地域と協同の研究センター」事務局（大島）までご連絡ください。

2016年9月25日発行（毎月25日発行）
 定価200円
 （税・送料込み。年会費には購読料が含まれています）
 発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
 代表理事 西川 幸城
 〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39
 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
 E-mail AEL03416@nifty.com
 HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 10月の活動予定

- 10月1日(土)政策提言チーム会合
- 10月4日(火)研究フォーラム「食と農」 デイリーファーム訪問
- 10月6日(木)研究フォーラム「職員」
- 10月10日(月)共同購入マイスターコース④
- 10月11日(火)岐阜地域懇談会「ひなたぼっこ」 事前訪問
- 10月13日(木)常任理事会、三河地域懇談会・世話人会、三重地域懇談会・世話人会
- 10月14日(金)研究センター事務局会議
- 10月17日(月)尾張地域懇談会・世話人会
- 10月18日(火)研究フォーラム「地域福祉を支える市民協同」
- 10月20日(木)岐阜地域懇談会・世話人会
- 10月27日(木)組合員理事ゼミナール②
- 10月28日(金)生協の（未来の）あり方研究会
- 10月29日(土)政策提言チーム会合